日経産業新聞　2010/09/08（水）　掲載

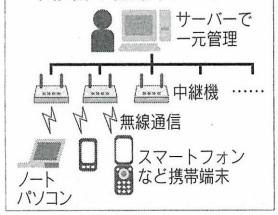
無線LAN中継機

速度5倍、省電力で

フルノシステムズ

情報機器開発のフルノシステムズ（東京・墨田、妹尾行雄社長）は、大学や企業内などの無線LAN（構内情報通信網）の整備に使う電波中継機で、従来の約5倍に高速化した製品を開発した。同社のシステムと組み合わせれば、複数の中継機のアクセス権限やログ管理などの一元管理が可能になる。9月中旬に発売し、初年度1万台の売り上げを目指す。

フルノシステムズの電波中継機の利用イメージ



キャンパス内でパソコンを使って無線LANを利用できる

アクセス権限を一元管理

開発したのは「ACERA800シリーズ」。通信速度は最大毎秒300メガ（メガは100万）ビットと従来の54メガビットから高速化した。中継機を使わない時間帯に自動的に電力を節約する「エコモード」を搭載し、最大46%電力を削減する。

中継機の通信距離は半径約100メートル。パソコンやスマートフォン（高機能携帯電話）など約50台までつなぐことが可能。使用する周波数帯が1つのものと2つのものがあり、実勢価格はそれぞれ14万～15万円。

同社が開発した中継機器管理システム「UNIFAS（ユニファス）」と組み合わせると、約1000個の中継機をサーバーで一元管理できる。例えば、アクセス制限を中継機ごとに変えたり、夏休み中に、ある特定の中継機だけを使えなくしたりするなど細かな機能設定が可能になる。同システムの導入費用は、サーバー1台、中継機10台の場合で約230万円。

フルノシステムズは船舶用電子機器大手、古野電気の子会社で、業務用端末や無線機器が主力。無線LANの中継機器では米シスコシステムズなどの海外勢が強いが、拠点を一元管理できるシステム提供や日本語サポートを充実した製品を売り物に初年度約10億円の売り上げを目指す。

（ら）も用意した。

岩崎通信機

新分野進出で黒字に

3カ年計画　セキュリティーや環境

オフィス電話機大手の岩崎通信機は7日、2012年度までの3カ年を対象とした新中期経営計画を発表した。主力のオフィス電話機や電子計測器の市場縮小が進んでいるため、情報セキュリティーや環境分野への進出で黒字転換を図る。

新中期経営計画では、具体的な新規開拓分野として、ネットの不正侵入対策や映像監視、無線認証システムのほか、環境対応製品のメーカー向け計測器や、家庭の消費電力の測定器などを想定。電子製版の技術を用いたラベル印刷事業にも参入する。これら新規分野で70億円の連結売上高を見込む。

岩崎通信機の10年3月期の連結業績は売上高が前年同期比13・7%減の270億9600万円、営業損益は14億3000万円の赤字だった。新中期経営計画の最終年度となる13年3月期は売上高330億円、営業利益7億円の達成を目指す。

クラウド型の電子看板

ンと共同　手軽に

日本サムスン（東京・港、ユン・ジンヒョク社）は29日に発売すると発表した。コンテンツを手軽に

スや天気など200種類以上（無料・有料）を用意する。自前のコンテンツを作成・管理する機能も備えた。

（同）。日本サムスンの液晶ディスプレーは19型から82型まで13機種で対応する予定。

日本サムスンはこれま

光ファイバー施工の研修

シンガポールで受託

NTT西

NTT西日本は7日、シンガポールで光ファイバー回線網の施工技術者向けの研修を受託したと発表した。10月上旬に光ファイバーの知識やネットワークの構築、運用・保守などについて現地技術者に講義を実施する。日本の技術やノウハウを活用して、海外ビジネスの足がかりとする。

シンガポールでは、2012年6月までに国内の光回線カバー率を95%まで高める「Next Gen NBN」プロジェクトを政府が進めている。同国の通信大手などが出資する「Open Net」が、シンガポール政府から光回線の構築